

はじめに

皆さんは自分たちの住む地域で暮らしている外国人の割合をご存知ですか。

愛媛県は人口約127万人の内、約1%が外国籍の住民です。少ない印象を受けるかもしれませんが、愛媛県で暮らす外国籍の住民は年々増加しています。また、愛媛に宿泊する外国人来訪者も増加傾向にあります。

昨今は近隣アジア諸国の経済成長や引き続き円安基調などによるインバウンド需要の拡大や、人口減少による深刻な労働力不足を受けた新たな外国人人材在留資格の創出が急速に進み、県内でも滞在型・再訪型の観光地域づくりに取り組む動きが増え、雇用面においても外国人人材の受入れ環境の整備や採用・定着に向けた取り組みが広がっています。地方を訪問、滞在し、地方で生活する外国人は今後も増加が見込まれ、これから様々な文化を持つ外国人が地域社会に関わり、共に地域をつくる場面が増えるでしょう。

さて、当誌の連載「地域とつながり地域に学ぶ～愛媛大学社会共創部だより～」の前号では、ある大学生が、食事に決まり事があるイスラム教徒の留学生と一緒に食事をするできない現状を打破しようと、出身国の料理を学び作ることで他文化への理解を深め、外国人との共生に向けた周知・啓発の取組みへと発展させた記事が掲載されていました。

後日、投稿者と留学生お二人のお話を聞く機会がありました。自分の知識以上にイスラム教の規律は厳しく、口にできるものへの細かな決まり事が多いため、スーパーで食材を買うことが大変、コンビニで買って食べられるのはおにぎりくらい、ハラール認証がある飲食店は大学周辺にはほとんどないことを知りました。

さらに調べてみると、食材だけでなく調理方法や生活習慣まで多くの決まり事があり、お祈りの習慣も含めて、馴染みのない内容ばかりで衝撃を受けました。このような生活面での困りごとが原因で、日本の生活文化に溶け込めない留学生が多くいることに驚きました。

移住者の受け入れがそうであるように、外国人に対しても一方だけでなく双方がお互いの文化や生活、個性を理解し合い、価値観をすり合わせていくことが大切なのだと思います。人口減少社会における外国人との共生社会の実現は避けて通れないわが国の課題です。

そこで今回は「多文化共生」をテーマに取り上げ、これまでとは異なる地域づくりの可能性を探る取り組みを紹介します。身近に自分と違う文化を持つ人が同じように生活していることを受け止め、多様な文化を積極的に受け入れるため地域で多くの取り組みが行われていることを知るだけでなく、なぜそうした取組みが行われているかについてその一端に触れていただければ幸いです。

地域で暮らす人たちが多文化共生への知識や理解を深め、それをきっかけに地域の価値を改めて再認識し、多様性を受容する新時代のコミュニティづくりが進むことで地域の豊かさや活性化につながればと思います。

(アドバイザー 山岡 藍子)

